

建築資材の高騰、円安…ただでさえ建設費が高騰しているのに

白みりんミュージアム4億4千万円

11月24日から始まる市議会。市長提案の補正予算議案に白みりんミュージアム整備事業として4億4284万9千円（うち国費2億円、市債9千万円など）が予算化されていることが発覚しました。

「コロナ禍や物価高騰など、市民の生活の大変さが分かっていない（怒）」

白みりんミュージアムの建設地は、流山3丁目(株)キッコーマン敷地内で、30年間の無償提供を受け、敷地面積1500㎡（建築面積600㎡）を予定しています。

市民からは、「平屋で、建築面積1㎡当たり73万円は高いよ。資材が値上がりしている今、やるべきではない」「電気代が月4千円も値上がりし、食事を1日1回に減ら

している。市民の生活水準が分かっていない」との声が聞かれています。

また、農家からは「物価は上がっても、米価は上がっていない。今回、市担当課や小田桐市議も要望し、対策費用として1700万円が出ると聞いたが、優先課題がでたらめだ」と怒りの声が聞かれています。

年間維持費含めれば、大赤字!?

不要不急の箱モノは中止を

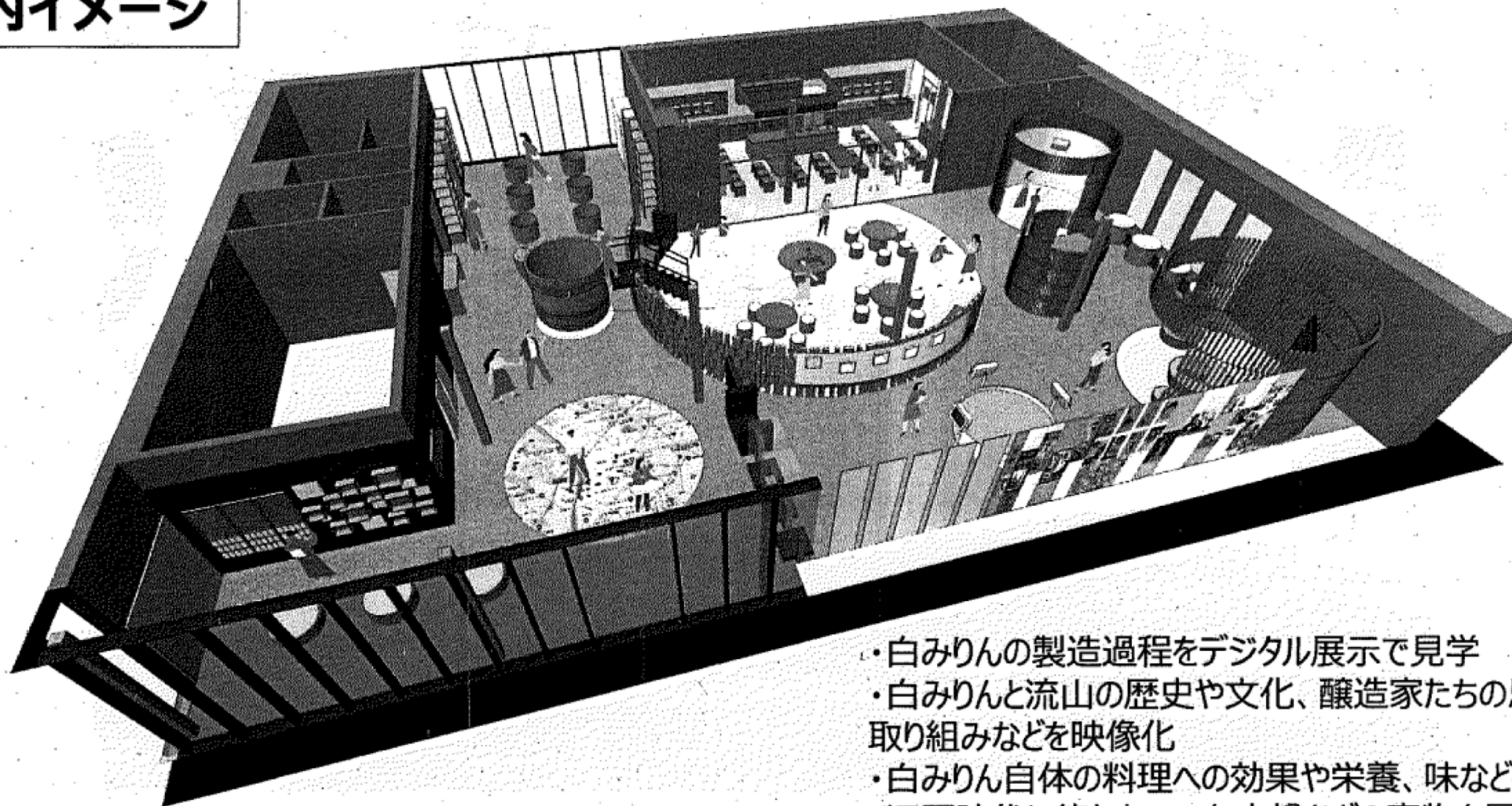
白みりんミュージアムは、不要不急の事業です。従って、コロナ禍や物価等高騰を踏まえれば、わざわざ補正予算で4億4千万円の新規事業を位置つける事は全くの誤りです。百歩譲って、予算化する場合でも、財政も含め計画行政上、次年度の当初予算に位置づけ、議会や市民の合意を図るべきでしょう。まさに「多選の弊害」であり、市民生活とかけ離れたトップダウンの施策です。「不要不急の箱モノは中止を！」の世論と運動を一緒に広げましょう。私も全力を尽くします。



流山市議会議員

小田桐 たかし

室内イメージ



- ・白みりんの製造過程をデジタル展示で見学
- ・白みりんと流山の歴史や文化、醸造家たちの思いや取り組みなどを映像化
- ・白みりん自体の料理への効果や栄養、味などを体験
- ・江戸時代に使われていた大樽などの実物を展示